

第85期 事業報告書

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで

確かな技術開発力と 商品提供力で、 地域社会に愛され続ける 100年企業を目指す。

株主、投資家の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに平成31年3月期の事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 **八木誠一郎**



平成31年3月期のフクビ化学は、
どのような一年でしたか？



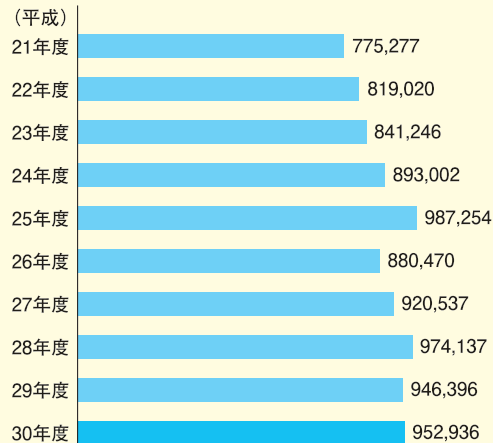
平成31年3月期は、当社グループの中期経営計画「Vision2019 CHALLENGE&CHANGE 目指せ100年企業!」(2017年度～2019年度)の2年目として、計画に基づいた具体的施策を積極果敢に実践し、100年企業に向けた一層の体制強化を目指す一年となりました。

国内景気は、好調な企業業績がけん引役となり、総じて緩やかな回復基調ではありましたが、一方で資源価格や人件費の増加が続き、また特に期の後半は各国間の通商問題や政治的混乱など海外情勢の不透明感の影響により、景気回復の減速が懸念される状況となりました。

当社グループの主な事業領域である住宅業界においては、住宅取得環境が良好であったことから、持家は前年比2.0%増と回復傾向が見られ、また、分譲住宅も大きく伸長しました。貸家は減少しましたが、新設住宅着工戸数全体では、戸数953千

全国新設住宅着工戸数の推移

(単位:戸数)



(出典:国土交通省)

戸(前年比0.7%増)、床面積76,573千㎡(同1.0%増)となり、戸数が2年ぶりに増加し、リーマンショック後では平成25年度、平成28年度に次いで3番目に高い水準となりました。

そのような中、当社では、成長分野への積極展開を図りました。事務所・施設向けの内装関連製品や、人工木材、浴室改修製品、車両向けの製品などへ経営資源を積極的に投入いたしました。

一方、フクビベトナムの新工場建設やフェノバード事業の譲受、精密事業部の低反射樹脂パネル増産に伴う新工場建設等への投資も推し進めています。

生産性の向上を図るため、業務の平準化やデジタルの活用による作業の合理化を図ったほか、工場再編による生産効率の改善を進めました。

また、新しい人材育成制度や、評価基準の明確化と目標達成に対する適正評価を目的とした、新たな昇格制度の運用もスタートさせています。

これらの結果、当期の売上高は、前年比2.1%増の410億100万円となりました。利益面では、工場再編等の生産体制の効率化を推し進めた効果が寄与し、営業利益17億6600万円(前期比29.7%増)、経常利益19億7800万円(同25.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益13億4600万円(同2.4%増)となりました。

Q 当期にマーケットで評価を受けた製品について教えてください。

A 積水化学工業(株)環境・ライフラインカンパニーから譲受した高性能断熱材「フェノバード」を、平成31年1月に販売開始しました。今後、住宅の更なる高性能化ニーズに応えられる製品として、当社グループの強みを生かした販路拡大を目指してまいります。

また、人工木材「プラスッド」や、その戸建用エクステリア商品「ソライエデッキ」が引き続き好評をいただいております。請負工事付きの受注が順調に推移しました。



低反射樹脂パネル「ハーツラスAR」も、エンジニアリングセールスの強化により、車載用を中心として受注を確保しております。

Q 中期経営計画の進捗状況についてお聞かせください。

A 中期経営計画を遂行していくためには、「守る領域」と「攻める領域」を正しく捉え、経営資源の配分を戦略的に行っていくことが大切です。

当社グループの中期経営計画は若手・中堅社員が中心となつて「100年企業」を掲げてまとめあげてくれたものです。

現在、次代を担う彼らを中心にした組織の活性化も同時に推進することで、新たな技術開発、新たな付加価値を生み出す源になればと考えています。

中期経営計画 Vision2019 (2017年度~2019年度) CHALLENGE&CHANGE 目指せ100年企業!

【基本方針】

①成長分野への積極展開

- ・成長分野へ経営資源を積極的に配分する。
- ・快適な社会の実現に向けて新規に拘った技術開発・商品開発を行う。

②生産性向上による利益の創造

- ・全社合理化運動を実施する。
- ・ビジネスモデルの変革を推進する。

③挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となるために、人材育成制度を革新し、全社員の総戦力化を実現する。

中計最終年度となる第86期は、これらの取り組みの総仕上げの時期であり、引き続き上記の基本方針の定着化を図り、更に一段上のステップに踏み出す基礎固めの年度となれるよう、「CHALLENGE&CHANGE」を強力に推し進めてまいります。

Q 今後の成長戦略についてのお考えをお聞かせください。

A 当社グループの成長の鍵は、将来に亘るニーズを的確に把握し、それを当社独自の新しい技術で開発し商品化に結び付けるところにあると考えています。

主戦場である住宅市場では、耐震など安全面の機能を重視した製品や、防音等新しい価値を創造した製品などは、今後ますます需要が高まることでしょう。

また、エネルギーを使わない住宅への方向性に沿った新商品の開発、コミュニティ全体での計画的なリフォームなど、住宅市場は減少傾向でもまだまだ開発の余地があり、そのニーズをエンジニアリングセールス等によりしっかりと把握し、取り組んでまいります。

加えて、産業資材分野は当社グループの今後の成長分野と位置付けており、特に車両向け光学系製品（導光棒）や、トラックの軽量化を目的とした車両用部材の樹脂化など、さまざまな提案活動を開始しております。

Q グローバル戦略についてはいかがでしょうか？

A フクビアメリカ(FUKUVI USA)は、米国市場の旺盛な建材の需要を受け、引き続き順調に業績を伸ばしております。米国工場の生産体制としましては、前期に製造ラインを増設し20ライン体制で対応しており、更なる増産も視野に入れております。

フクビベトナム(FUKUVI VIETNAM)は、これまで操業しておりました賃借工場が手狭になり、また今後拡大する需要に応えるため、昨年より自前の工場を建設しておりましたが、令和元年5月に竣工し、新たな一歩が始まったところです。新工場では、住宅建材、家電用部材、車両関係部材などの生産を行い、ベトナム・ASEANエリアでの製造・販売の中



核拠点としての更なる成長を期待しております。

タイクビ(FUKUVI THAILAND)は、昨年10月より24時間稼働を開始し、軌道に乗りつつあるところで、今後本格展開を図っていく所存です。

海外売上高比率につきましては、後は10%を目指し、受託生産を中心に取引先企業の住宅建材や家電用部材の製造を進めてまいります。

Q 最後に、株主の皆さまへメッセージをお願いします。

A 当期は、定期的を実施しております個人投資家さま向けIR説明会や、株主さま向け工場見学会を初めて開催するなど、より多くの方々当社グループを知っていただく機会を設けることができました。この活動は今後も続けてまいりたいと思います。

また来期は、中期経営計画の最終年度を迎えており、計画に掲げた基本方針に則り、フクビグループの全社員が同じ志、同じベクトルで成長を目指し、挑戦を新たな企業価値に変えることで、もう一段上のステージに駆け上げられる一年としたいと思っております。

常に挑戦し、絶え間なく自己変革する姿勢を忘れず、当社グループが一丸となって競争優位を創り上げることこそが「100年企業」に向けてのチャンスを広げる最善の道です。

今後も中長期を見据えた計画の着実な実行により、株主や投資家の皆さまのご期待に応える企業へと成長を果たす所存ですので、変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



●平成30年11月～令和元年5月の主なTOPICS

COOL CHOICE FUKUI FESTA2018に出展

当社は「福井市環境推進会議」に参画しており、環境に対する支援活動の一環として福井市環境課主催の「COOL CHOICE FUKUI FESTA(クールチョイスふくいフェスタ)2018」に出展しました。

当社ブースでは、チラシの裏紙を再利用して葉っぱの形に切り取り、来場した方々に「エコ宣言」を書いてもらい、それを当社の人工木材「プラスッド」の端材で作った木に貼り付けてもらう、という企画を行いました。

引き続き、業務でも、また社員ひとりひとりの日常生活においても、環境への配慮を促すような取り組みを続けてまいります。



平成30年
11月18日

「フクビエアサイクルの家」が「みらいのたね賞」を受賞



当社の推進する「木造住宅長寿命化システム『フクビエアサイクルの家』」が、平成30年11月に東京ビッグサイトで開催された、日本能率協会が主催する建築展示会「Japan Home & Building Show」において、優れた建築を生み出すことに貢献しうる製品や未来への布石となる製品に与えられる「みらいのたね賞」を受賞しました。

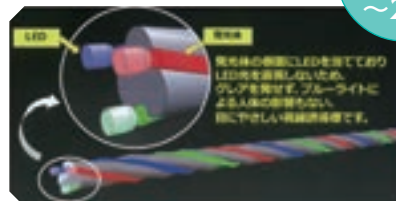
エアサイクル工法は、適切な断熱・気密化に加え、空気を動かす仕組みを設けることで湿気が溜まらない環境を作り出すことが特徴です。

平成30年
11月20日

ハイウェイテクノフェアに「光るワイヤーロープ」を出展

理研興業(株)との共同研究による「光るワイヤーロープ」を、平成30年11月に開催されたハイウェイテクノフェアに出展しました。

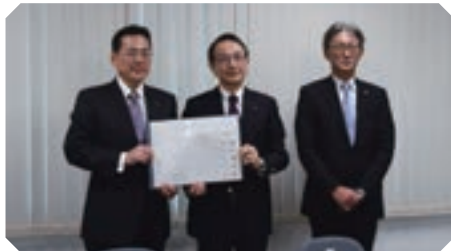
当社製品の「光ガイドングバー」と理研興業(株)のワイヤーロープを使用しており、高速道路等の中央分離帯に設置される視線誘導標としての採用を目指し、実証実験を行っています。



平成30年
11月28日
～29日

地域の自治会と防災連携協定を締結

平成31年
2月4日



本社および本社工場が立地する麻生津地区の地元自治会と防災連携協定を締結しました。対象となる自治会の世帯数は約1,000世帯、居住人口は約3,000人となります。

本協定は、大規模な地震や風水害およびその他の災害発生時に、地域の自治会と連携を図り、避難場所や備蓄品の提供等の協力により、災害時の円滑な支援活動を行うことを目的としています。

エネルギー管理優良事業者等表彰を受賞

平成31年
2月26日

(社)日本電気協会が主催する「エネルギー管理優良事業者等表彰」において、当社本社工場が「日本電気協会北陸支部会長表彰」を受賞しました。

今まで取り組んできたエネルギー管理活動の成果が認められ、今回の受賞となりました。当社は今後も引き続きエネルギー管理を推進してまいります。



株主さま向け工場およびショールーム見学会を開催

平成31年
3月12日

当社初の株主さま向け工場およびショールーム見学会を開催しました。抽選に当選された株主さま28名が来社され、実際の製造現場や製品サンプルをご覧になり、当社への理解を深めていただきました。

今後も定期的に工場等の見学会を開催し、技術力や現場をご覧いただくことで、より一層「信頼される会社」を目指し努力してまいります。



防災連携協定を締結した地域自治会向けの防災設備見学会を開催

平成31年
4月13日



平成31年2月に地域自治会と締結した防災連携協定に基づき、本社にて地域自治会の方々向けに防災設備・備蓄品等の見学会を開催しました。

備蓄倉庫の見学や非常食の試食会を通じて、実際の非常時の対応について理解を深めていただきました。

今後は防災訓練等でも連携し、更に地域との結びつきを深めていく予定です。

フクビベトナムの新工場が完成

令和元年
5月10日

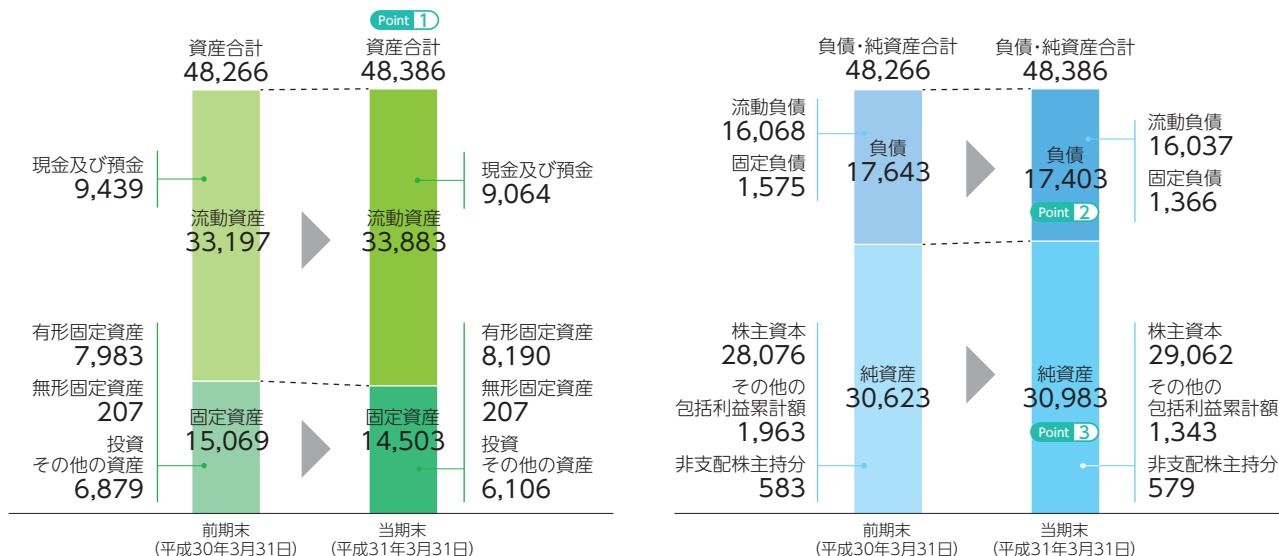
フクビベトナムは、これまで操業していた賃借工場が手狭になったため、昨年より自前の工場を建設していましたが、このほど新工場が竣工し、5月10日に現地でオープニングセレモニーが開催されました。

フクビグローバル戦略において、このベトナム新工場をベトナム・ASEANエリアでの製造・販売の中核拠点と位置付け、今後も大きな市場拡大が期待される東南アジア地域の新規市場開拓のための戦略基地とします。



連結財務諸表の概要

[資産の状況] (百万円)



資産の状況

Point 1 総資産(=資産合計)

総資産は、前連結会計年度末に比べ1億20百万円(前期末比0.2%)増加し、483億86百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、現金及び預金が3億76百万円減少し、また、受取手形及び売掛金が2億53百万円減少した一方で、電子記録債権が6億3百万円増加し、また、商品及び製品が5億19百万円増加したことなどにより、6億87百万円(同2.1%)の増加となりました。固定資産では、有形固定資産が2億7百万円増加した一方で、投資その他の資産が7億73百万円減少したことなどにより、5億66百万円(同3.8%)の減少となりました。

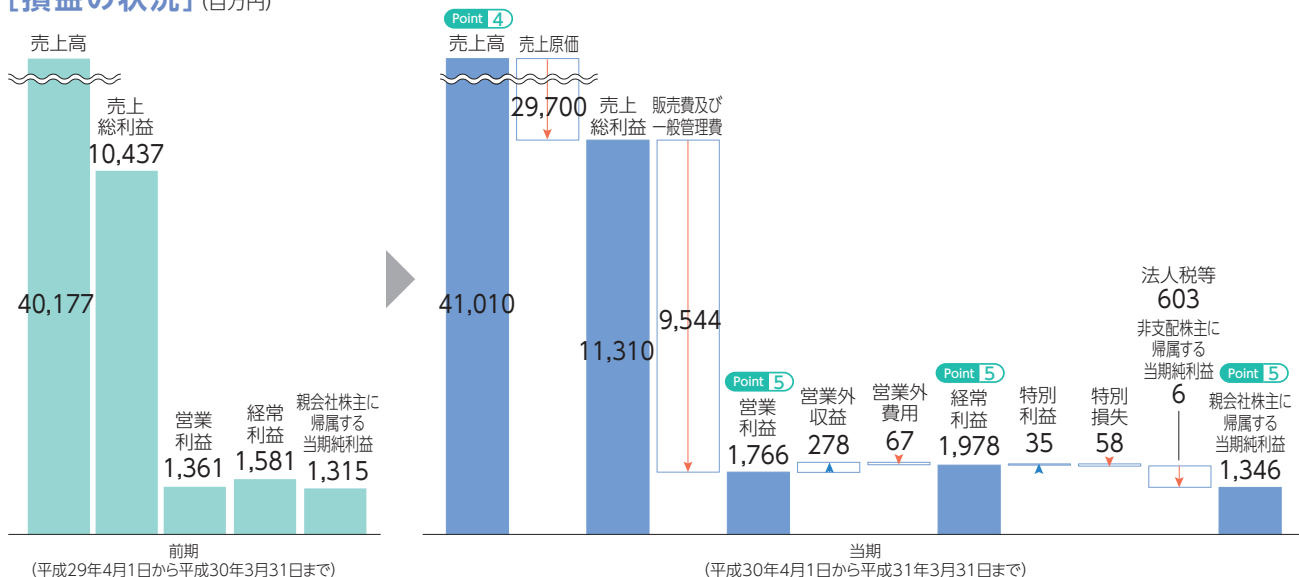
Point 2 負債

負債は、前連結会計年度末に比べ2億40百万円(前期末比1.4%)減少し、174億3百万円となりました。主な増減要因としては、流動負債では、支払手形及び買掛金が21百万円増加し、また、未払費用が1億79百万円増加した一方で、設備関係支払手形が4億21百万円減少し、また、未払法人税等が8百万円減少したことなどにより、32百万円(同0.2%)の減少となりました。固定負債では、リース債務が51百万円増加した一方で、繰延税金負債が2億82百万円減少するなど、2億9百万円(同13.3%)の減少となりました。

Point 3 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ3億61百万円(前期末比1.2%)増加し、309億83百万円となりました。主な増減要因としては、その他有価証券評価差額金が4億9百万円減少し、また、退職給付に係る調整累計額が2億14百万円減少しました。株主資本合計は、利益剰余金が9億85百万円増加し、290億62百万円となりました。この結果、自己資本は304億4百万円となり、自己資本比率は62.8%となりました。

[損益の状況] (百万円)



損益の状況

Point 4 売上高

当社グループの主な取組みとしては、第5次中期経営計画「Vision2019 CHALLENGE&CHANGE 目指せ100年企業!」(2017年度～2019年度)の2年目として、次の3つの基本方針に則り、具体的施策を実践してまいりました。

○成長分野への積極展開

リフォームや事務所・施設向け内装関連製品、人工木材や浴室改修製品、また住設や車両向けの製品など、成長分野への経営資源の積極投入を図りました。また、フクビトナムの新工場建設やフェノバード事業の譲受、精密事業部の低反射樹脂パネル増産に伴う新工場建設等への投資も積極的に推し進めました。

○生産性向上による利益の創造

中計当初より組成した組織横断PJや各本部と中計委員会との連動により、今まで実現できなかった原価低減の活動に取り組みました。具体的には、業務の平準化やデジタルの活用による作業の合理化を図つ

たほか、工場再編による生産効率の改善を進めました。

○挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

社員自身が成長を実感できるような人材育成制度や、評価基準の明確化と目標達成に対する適正評価を目的とした、新たな昇格制度の運用をスタートさせました。

以上により、当連結会計年度の売上高は、410億10百万円と前期に比べ2.1%の増収となりました。

Point 5 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

工場再編等の生産体制の効率化を推し進めた効果が寄与し、営業利益17億66百万円(前期比29.7%増)、経常利益19億78百万円(同25.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益13億46百万円(同2.4%増)となりました。

会社の概要

会社の概要

(平成31年3月31日現在)

創 立 昭和28年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

主要な事業品目

建築資材

外 装 建 材

セミックス(窯業系不燃外装材)、コンパルソリー(耐候性樹脂製外装材)、左官定木、エコランバー、換気材、スーパーエアテックス(防風透湿シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)、ウェザータイト(防水部材)、耐震関連部材

内 装 建 材

バスパネル(浴室用パネル)、見切、内装下地材、点検口枠、アルパレージ、樹脂開口枠、養生材、フェノバボード・フクフォーム・フクフォームEco(断熱材)、ケンジュール(人工大理石)

床 関 連 材

クッションフロア、床タイル、フリーフロア、乾式遮音二重床システム、OAフロア(フリーアクセスフロア)、機能束(プラ束、鋼製束)

システム建材

エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)、プラスチック(木粉入り樹脂建材)、メルツエンサッシ内窓

産業資材

樹 脂 サ ッ シ 窓枠、浴室用ドア

産 業 機 器

車両部材、住宅設備部材、機器部材、仮設部材、精密化工品

役員

(令和元年6月19日現在)

代 表 取 締 役 員 八 木 誠 一 郎
社 長 執 行 役 員

代 表 取 締 役 員 采 野 進
副 社 長 執 行 役 員

代 表 取 締 役 員 大 畑 忠
専 務 執 行 役 員

取 締 役 岩 淵 滋 群栄化学工業株式会社社外取締役

取 締 役 奥 島 孝 康 白鷗大学学長 早稲田大学元総長

取 締 役 諫 山 滋 三井化学株式会社 常勤監査役

取 締 役 執 行 役 員 大 野 繁

取 締 役 執 行 役 員 加 川 潤 一

取 締 役 執 行 役 員 柴 田 寿 裕

取 締 役 執 行 役 員 豊 嶋 雅 子

常 勤 監 査 役 川 瀬 慎 一 郎

監 査 役 玉 井 三 千 雄 あおぞら経営税理士法人 代表社員

監 査 役 藪 原 孝 夫 藪原孝夫税理士事務所

顧問

顧 問 長 瀬 洋 長瀬産業株式会社
代 表 取 締 役 社 長

顧 問 森 克 則 三井物産プラスチック株式会社
代 表 取 締 役 社 長

顧 問 小 田 英 治

株式の状況 (平成31年3月31日現在)

株式の状況

株式の総数

発行可能株式総数	63,000,000 株
発行済株式の総数 (自己株式72,878株を除く)	20,615,547 株

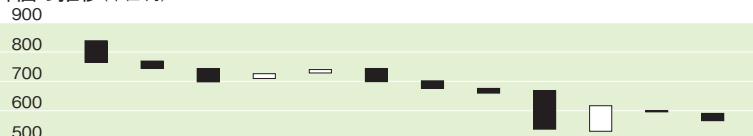
当期末現在の株主数 2,252 名

大株主

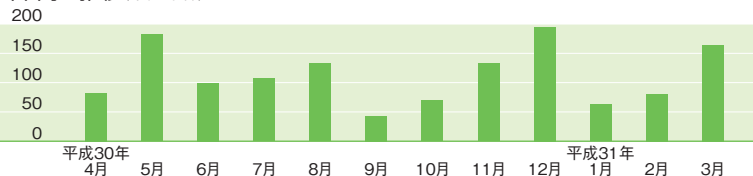
株主名	持株数
株式会社八木熊	2,574,140 株
長瀬産業株式会社	2,464,308
三井化学株式会社	2,001,885
三井物産プラスチック株式会社	983,220
株式会社福井銀行	710,300
昭和興産株式会社	669,573
株式会社北陸銀行	624,900
八木誠一郎	610,703
蝶理株式会社	600,382
八木信二郎	540,581

株価チャート

株価の推移 (単位:円)

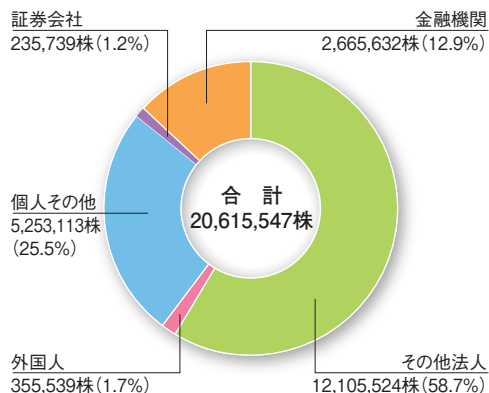


出来高の推移 (単位:千株)

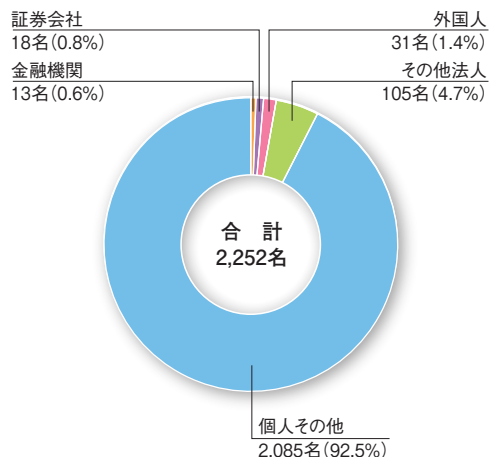


株主分布状況

〈所有数別〉



〈所有者別〉



化学のチカラで、想いをカタチに。

企業理念

- ・化学に立脚し、新たな価値を創造、提案する。
- ・企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する。

中長期ビジョン

- ・新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する。
- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す。

株 主 メ モ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

公告方法 電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

<https://www.fukuvi.co.jp/>

上場証券取引所 東京市場第2部・名古屋市場第2部

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。

